

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社 ユニマツリティアメント・コミュニティ		
事業所名	太田グループホームそよ風 1Fキンモクセイ		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.unimat-rc.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅前繁華街という立地ではあるが、近所に大きな公園があり1年を通して季節を感じて頂ける様、散歩等行っている。コロナ禍で地域交流、運営推進会議は開催出来ていないが、ご利用者様少数にてマスク等感染対策を行い、公園のごみ拾いに参加し交流を図り、地域社会との繋がりを大切にしています。1Fキンモクセイは、介護度の高い重度の方が多く、日頃から訪問看護や主治医、専門医との情報共有を密に行う事で徹底した体調管理ができ、病状の安定が図れている。ご家族様にも定期的にお電話やビデオ通話にて状態報告を行うと共に、毎月写真入りの月報を郵送する事でコロナ禍の面会禁止でも施設でのご様子を見て頂く事で安心していただき、信頼関係も築けている。病状が安定する事で一人一人が安心し、その人らしく過ごす事が出来る様常にご入居者様の立場に立ってサービスが提供出来る様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本の伝統的な年間行事や風習などを生活の中に取り入れ、日常のなかでの楽しみに発展させるなど、日々の生活のなかにも楽しみ事を上手に取り入れている。食事においても、利用者や家族の意向を聴取しての取り寄せメニューや出前食、手作りの行事食やおやつ等の提供が行われ、食へのたのしみにつなげている。また、非常時の対策として、事業所内に数百食の冷凍弁当を保存している。日々の支援においては、介護サービスにおいても利用者をお客さまとして接する対応を実践していくこととし、利用者や家族への対応に努めている。その他、運営方針に則った利用者のQRコードの活用による服薬管理や、ケアカルテでの毎日のモニタリングなど、新しい取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

キンモクセイ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が必ず集まり、申し送りを行う場所に掲示し、唱和すると共に、申し送り時や月に2回行う会議、研修にて理念に紐ついたサービスが出来ているか確認、指導行っている。	理念を「活き活きと笑顔で過ごせるグループホーム」と掲げ、その人らしく、なごやかな環境で、ゆったりと自由な時間を過ごして頂けるよう、利用者が何を望み、何を求めているのかを話し合い、個別の支援の提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は難しいが、近所のごみ拾いに参加し交流している。	2019年にあらたに事業所を開所したが、コロナ禍の影響を受けて、描いていた地域交流ができていない。市の中心街に位置する利点を活かし、地域の幼稚園児との交流や商店への買い物などを楽しみながら生活していきたいと計画しているが、現在は通行人との交流程度に留まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為学んだ知識や介護について地域の方への発信は出来ていないが、お電話での相談に対応したり病院での受診時の待合室や近所の公園での散歩時声掛けやお話しさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催は自粛しているが、2ヶ月に1度書面開催し、市役所へ報告している。ご家族様へはお電話にてご意見をいただき、参考にさせていただいている。	市の職員、区長、民生委員、利用者家族を会議メンバーとし、事業所の運営状況(ヒヤリハット、事故・看取り、行事、その他の連絡事項)を書面にて詳細に報告している。コロナ禍前は、利用者も参加して開催し、お茶とお菓子を提供してリラックスした中で意見交換を行っていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ対策、ワクチン接種の件でお電話にて密に連絡を取らせて頂いている。	コロナワクチンの集団接種について、若年性認知症の利用者も一緒に受けられないかと市に相談し、対応してもらうなど連携をとっている。また、利用者の万一の離園に備えて、地域の交番に協力を依頼している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回の研修に加え、3ヶ月に1度身体拘束適正化・虐待防止委員会を開催し、事例を挙げて具体的に検討し職員の理解を深め実践に活かして頂いている。	身体拘束をしないケアに対する全職員への研修やカンファレンスでの意識づけに努めている。車椅子から頻りに立ち上がる方に対する転倒予防として、職員が常に傍に付き、一緒に動くよう対応している。また、認知症の行動の特徴を会議で共有してケアに活かし、必要に応じて認知症専門医の受診に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度の研修と委員会による研修、毎月の全体会議、グループ会議にてアンケートや研修を取り入れ常に意識したサービスが出来る様指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援について日頃から積極的に話し合いが行われている。現在、成年後見制度を活用されている方が1名おり、必要な支援を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面に沿って出来る限り丁寧な説明を行い、納得頂いた上で署名捺印を頂いている。改定の際も書面にて同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご入居者様が意見を出しやすい雰囲気作りに努力し、コロナ禍で面会、外出が出来ない為遠方の孫や曾孫の顔が見たいとの意見を取り入れビデオ通話を繋いだり、レターセットや絵葉書を送る取り組みに力を入れている。	毎月、管理者が家族に電話で希望を聴取している。外食の希望には取り寄せや出前を取り入れたり、いつまでもきれいでいて欲しいと願うケースでは入居前のお気に入りの衣類を着用してもらったり、化粧品やマニキュアを支援したりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、会議、定期的に行っているアンケート等で意見や提案を聞き運営に反映している。	申し送りノートに、職員が気づいた事を書き込んだり、資料を添付したりして意見を言える機会がある。利用者へのサービスの向上を目指したスタッフ増員の希望が出され、職員の募集をにつなげている。また、資格取得のための勤務調整や休みの希望に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新、人事考課、賞与考課時に面談を行い、業務の振り返りや今後の課題個人目標等ヒアリングし、公平な就業環境に努めている。毎月の希望休、有給休暇取得等就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議、グループ会議の他にも会社内の研修や外部研修に積極的に参加し、学んだ知識を職場に持ち帰り、他の職員に伝え共に向上するよう努めている。現在喀痰吸引研修参加者1名あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の協議会にオンラインで参加し、他県のグループホームの職員との意見交換や情報交換させて頂き、良い部分を参考にさせて頂きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のお気持ちに沿った生活が送れるよう、ご本人様、ご家族様、関係機関からの情報収集を行い、安心して生活が送れるよう環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご本人様のご様子を十分にアセスメントし、ご家族様とご本人様の不安が少しでも軽減されるよう、傾聴説明している。入居後は生活に慣れるまでご家族様とこまめに連絡を取り合い、施設でのご様子をお伝えし安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向に寄り添い、必要としている支援に合った介護サービスが受けられるよう努めており、同一敷地内のショートステイや、他事業所を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事は見守り介助行い、ご入居者様を家族の一員と考え、共に喜びや悲しみを共有し、助け合って生活出来るアットホームな雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会や外出が出来ない為お電話やお手紙のやり取りが頻繁になった。ご家族様からも差し入れが送られてきたり、お写真が送られてきたりするので、お礼のビデオ通話をしたりと絆が逆に強まった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でご家族様以外の方の出入りは無く、疎遠になっている。昔よく行った場所等お話を聞き写真をネットで出し思い出話を楽しんでいる。	コロナ禍前は外出・外泊を積極的に取り入れ、年末・年始、誕生日、祝い事などの機会に、自宅や家族宅へ出掛けられるよう支援していた。家族との関係改善につながったケースもある。現在は、コロナ禍のため、土地の名所や入居前の住所地在インターネットで鑑賞し、話題づくりをして継続した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順の配慮や職員の声掛けによって、日々のコミュニケーションやレクなどを通してお互いが関わりあえ、助け合いながら生活できる環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで利用が中止になった方のご相談をお電話でさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍で帰宅や外出の希望は叶えられていないが、ご家族様の協力を得て希望に添えるようにしています。意思疎通が困難な方は表情を見て笑顔になれる様な関わりを日々検討しています。	できる限り声かけを多く持ち、利用者の訴えを聞き、それに沿えるようケアの方法を追求している。夫の逝去を忘れてしまい不穏になる利用者に対し、居室に夫の遺影と位牌を設置して、職員と一緒に花を毎日手向けることで、落ち着いて生活できるようにした事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご本人様、ご家族様からしっかりアセスメントをし、環境を把握します。入居前に関わったケアマネから話を聞いたり、サマリーをいただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテにその日の様子やレクでの様子、食事量、バイタル測定、排泄量等を入力し情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り、毎月のグループ会議で職員同士でモニタリングをし、ご本人様、ご家族様からも意見を聞き、介護計画書に反映させている。	管理者と計画作成担当でケアプランを作成し、個人ファイルに添付して、全職員が確認している。その日の担当職員がそれぞれの利用者の短期目標に照らして生活の様子を入力し、管理者がケアカルテに沿って毎日モニタリングを行っている。半年毎にケアプランを見直し、状態変化時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(お食事・水分・排泄・バイタル等)をカルテに入力し、情報を共有している。また、気が付いた点があれば申し送りに話題にあげ、申し送りノートにも記入し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、やご家族様の状況に応じて受診援助や買い物支援等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅前繁華街ではあるが、近所に大きな公園がある為散歩をしながら地域の方たちと話をしたり、季節を感じていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月に1度の往診の他に24時間電話対応して頂いている。かかりつけ医が内科医の為、認知症や精神疾患、皮膚科、整形外科、泌尿器科等専門医受診はご家族様のご協力をいただき、最適な医療が受けられる様支援させていただいている。	事業所の協力医と連携した訪問看護師が、週1回全利用者の状態を確認し、必要な医療処置を行っている。誤薬防止の対策として、分包された服薬袋に利用者のQRコードを印刷し、確認しながら服薬を行っている。また、処方薬の飲みやすさを考慮し、薬局と相談して薬の変更を主治医に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問し、バイタル測定を行い、介護職員の気付いた点を報告し、助言を頂いている。訪問看護師とかかりつけ医が24時間電話対応して下さっているので、いつでも適切な受診や看護を受けられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず職員が付き添い情報提供に努め、サマリーを病院に提出している。入院中も病院のソーシャルワーカーや病棟の担当看護師と連絡を取り情報交換に努めている。退院時も必ず付き添い退院時のサマリーや薬情等細やかな指示を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したご入居者様はご家族様の意向、ご本人様の意向を確認し、主治医の指示の下、看取り支援を行っています。入居の際、十分な説明を行い、契約書に同意、署名、捺印を頂き、主治医より、看取り期との診断があった時に再度看取り契約の確認を行っております。	これまでに1名の看取りを行い、協力医と訪問看護と連携して対応した。職員は、段階を追って今できることは何かを話し合い、最期に備えた支援の流れを学び、看取りに備えた。看取り期には家族の面会を許可して、親しい方々に囲まれて最期を迎えることができた。亡くなった後も、家族との交流がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故対応時は事故報告書をもとに、その都度カンファレンスを行っている。社内対応フローをもとに、的確な対応が出来る様、日々指導教育を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練にてご入居者様の避難方法等、職員の研修は出来ているが、コロナ禍で地域との協力体制は築けていない。	隣接するショートステイ施設と合同で、火元を仮定して、消火訓練と避難誘導を行った。夜勤帯の連携体制や救援要請について話し合い、ショートステイと協力した連絡係と避難誘導係を位置づけている。近隣への協力を依頼する段階で、コロナ禍となったためその働きかけが中断している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様個人の性格を把握し、訴えや会話を否定せず、人格を尊重する言葉がけに気を付けています。生活全般に関する支援については極力プライバシーを損ねない言葉かけや対応が出来る様努力している。	利用者が傷つくことがないように、細心の注意を払い、他の利用者の中で排泄確認をするなど、気遣いに欠けることがないように注意している。入浴では、同性介助としている。お客さまと接するマナーで、利用者へ接することを原則としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様とのコミュニケーションを通して表情やお言葉をしっかり感じ取り、出来るだけ自己決定していただく環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のコミュニケーションを大切に、本人のペースや希望に基づいてケアを提供出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るお洋服はご本人様が選び、訪問美容にてカット、カラー、パーマ等オシャレを楽しんでみえる。レクリエーションの一環としてマニキュアや口紅楽しませている。昔から愛用されていた化粧水等ご家族様にご協力いただき、提供させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの希望やアンケートを定期的に行い、お取り寄せランチ等食事が楽しみになるよう努めている。出来る方にはテーブル拭きや食器洗い等手伝って頂いている。	毎月、厨房職員が「食べたい物アンケート」を実施し、月に3~4回の行事食、お取り寄せメニューや出前食を提供し、毎日のティータイムには10種類以上の飲み物を用意している。管理栄養士と連携して、「栄養ケアに係る技術的助言及び指導内容」として、口腔体操や水分補給、食形態や体重増減についての指導を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が行っており、食事摂取量、水分摂取量管理出来ている。毎月1回栄養士による栄養管理指導が行われ、ご入居者様1人1人の習慣に応じた支援が出来る様指示頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアが出来る方は声掛け実施。介助の必要な方は職員が口腔ケアを行っている。うがいが出来ない方には口腔ウエットシートにて拭きあげ、口腔内の清潔保持に努めている。毎週1回訪問歯科往診があり、虫歯治療、義歯調整等の定期的なチェックをさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを職員全員で共有し、声掛け、誘導にてトイレでの排泄が出来るよう支援しています。1人介助でトイレに座るのが難しい方は職員2人介助にて便座に座り、排泄出来る様取り組んでいます。	できる限りトイレでの排泄ができるよう、便座に座る習慣づけを行っている。そうしたなか、退院時に車椅子の利用でおむつを使用していた方に対し、2人介助で便座への移乗を続けた結果、運動機能の改善に繋がりがちとなり立ちが可能となった事例もある。他施設の成功事例を参考にして取り組みたいと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクリエーションの中に軽運動が組み込まれており、自らウォーキングを実施される方も多くいらっしゃる。必要な方は医師に相談し、内服にて排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日を除いた午前中に行っており、週2回程度になっている。個々の希望日や時間に沿った支援は出来ていないが、少しでも楽しめる様入浴剤を用意し好きな入浴剤を選んで入浴していただいている。	午前中に3名が、着替えの準備を一緒に行い、5種類の入浴剤から好みを選んでゆつくりと入浴できるようにしている。湯上りには、それぞれが用意したクリームや化粧品の使用に対応している。入浴拒否の方には声かけ方法で入浴につなげ、皮膚状態等に合わせた回数を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアへの案内は強制せず、自室で自由に過ごされる方もいらっしゃるが、殆どの方がフロアに出てテレビや談話、レクリエーションに参加されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、ご入居者様全員の服薬情報を理解するには至っていないが、個人ファイルに薬情がファイルされており、確認出来る状況となっている。通常の服薬手順に加え服薬支援システムが導入されており、誤薬等の事故を防ぐ事が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の好みや能力に合わせて職員とコミュニケーションを取りながら洗濯物干しや、衣類畳み等お手伝いをしていただいている。役割を持つ事で生活に張り合いや喜びを持っていただける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えているが、天気の良い日は近所の公園まで散歩に出かけたり、2Fバルコニーに出て日光浴を行っている。	広いバルコニーを日常的に活用して、洗濯物干しを一緒に行っている。また、気候の良い時期には、バルコニーで食事をしたり、ホットプレートでおやつ作りをしたりしている。ガーデニングや花作りも行い、今年はプランターでミニトマトづくりを予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出の支援を控えている為、お金を所持し、買い物等の支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で以前よりも電話やビデオ通話、手紙のやり取りが頻繁になった。レターセットや塗り絵付き葉書等用意し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは、ご入居様がくつろいで生活出来る様テレビやソファ、季節の花等配置し居心地よく過ごせるよう工夫している。	それぞれが自由にくつろげる場となるようにしており、そうしたなか、ソファに横たわって、深夜までテレビ鑑賞をする方、トランプやかるた取りを楽しむ方達や、編み物、脳トレ・読書、塗り絵、漢字検定の勉強をしている方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様は各居室で一人になる場所があり、気の合う方とテーブルやソファで自由に過ごされる。ご入居様ご自身の意見で席順を変更することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から大切にしている物や、馴染みのある家具等持ってきていただき、以前との生活のギャップを感じない工夫をしています。居室の壁にレクレーションで作った作品を飾ったり、写真を飾ったり生活感を出しています。	居室には、ベッド・クローゼット・加湿器が設置されている。その他、タンスやテレビ台・サイドテーブル・じゅうたん・家族写真など、使い慣れた物や落ち着ける物を持参している。居室でもテレビやラジオを楽しめるよう、利用者や家族と相談して過ごしやすい居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、屈伸運動や廊下歩行を行い、運動不足にならないよう配慮しています。トイレや居室が分かりやすいよう大きな字で表示しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社 ユニマツリティアメント・コミュニティ		
事業所名	太田グループホームそよ風 2Fハナミズキ		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.unimat-rc.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅前繁華街という立地ではあるが、近所に大きな公園があり1年を通して季節を感じて頂ける様、散歩等行っている。コロナ禍で地域交流、運営推進会議は開催出来ていないが、ご利用者様少数にてマスク等感染対策を行い、公園のごみ拾いに参加し交流を図り、地域社会との繋がりを大切にしています。2Fハナミズキは自立度の高い方が多く、ご入居者様1人1人尊重した生活が出来る様、生活歴、思いや意向の把握に努め、生きがいを持って自分らしく生活していただけるよう職員1人1人がご入居者様と生活を共にしている事を意識し、ゆっくり落ち着いた環境でコミュニケーションを取り、楽しみや役割を持っていただきながら安心して快適な生活環境を提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ハナミズキ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が必ず集まり、申し送りを行う場所に掲示し、唱和すると共に、申し送り時や月に2回行う会議、研修にて理念に紐ついたサービスが出来ているか確認、指導行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は難しいが、近所のごみ拾いに参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為学んだ知識や介護について地域の方への発信は出来ていないが、お電話での相談に対応したり病院での受診時の待合室や近所の公園での散歩時声掛けやお話しさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催は自粛しているが、2ヶ月に1度書面開催し、市役所へ報告している。ご家族様へはお電話にてご意見をいただき、参考にさせていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ対策、ワクチン接種の件でお電話にて密に連絡を取らせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回の研修に加え、3ヶ月に1度身体拘束適正化・虐待防止委員会を開催し、事例を挙げて具体的に検討し職員の理解を深め実践に活かして頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度の研修と委員会による研修、毎月の全体会議、グループ会議にてアンケートや研修を取り入れ常に意識したサービスが出来る様指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援について日頃から積極的に話し合いが行われている。現在、成年後見制度を活用されている方が1名おり、必要な支援を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面に沿って出来る限り丁寧な説明を行い、納得頂いた上で署名捺印を頂いている。改定の際も書面にて同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご入居者様が意見を出しやすい雰囲気作りに努力し、コロナ禍で面会、外出が出来ない為遠方の孫や曾孫の顔が見たいとの意見を取り入れビデオ通話を繋いだり、レターセットや絵葉書を送る取り組みに力を入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、会議、定期的に行っているアンケート等で意見や提案を聞き運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新、人事考課、賞与考課時に面談を行い、業務の振り返りや今後の課題個人目標等ヒアリングし、公平な就業環境に努めている。毎月の希望休、有給休暇取得等就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議、グループ会議の他にも会社内の研修や外部研修に積極的に参加し、学んだ知識を職場に持ち帰り、他の職員に伝え共に向上するよう努めている。現在喀痰吸引研修参加者1名あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月協議会にオンラインで参加し、他県のグループホームの職員との意見交換や情報交換させて頂き、良い部分を参考にさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のお気持ちに沿った生活が送れるよう、ご本人様、ご家族様、関係機関からの情報収集を行い、安心して生活が送れるよう環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご本人様のご様子を十分にアセスメントし、ご家族様とご本人様の不安が少しでも軽減されるよう、傾聴説明している。入居後は生活に慣れるまでご家族様とこまめに連絡を取り合い、施設でのご様子をお伝えし安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向に寄り添い、必要としている支援に合った介護サービスが受けられるよう努めており、同一敷地内のショートステイや、他事業所を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事等出来る事はお手伝いをお願いし、少しの介助があればご自分で出来る事は一緒に行う事で自信を持っていただき、共に喜びや悲しみを共有し、助け合って生活出来るアットホームな雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会や外出が出来ない為お電話やお手紙のやり取りが頻繁になった。ご家族様からも自宅の庭で採れたみかんや金柑等差し入れが送られてきたり、お写真が送られてきたりするので、お礼のビデオ通話をしたりと絆が逆に強まった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でご家族様以外の方の出入りは無く、疎遠になっている。昔よく行った場所等お話を聞き写真をネットで出し思い出話を楽しんでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順の配慮や職員の声掛けによって、日々のコミュニケーションやレクなどを通してお互いが関わりあえ、助け合いながら生活できる環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで利用が中止になった方のご相談をお電話でさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍で帰宅や外出の希望は叶えられていないが、ご家族様の協力を得て希望に添えるようにしています。意思疎通が困難な方は表情を見て笑顔になれる様な関わりを日々検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご本人様、ご家族様からしっかりアセスメントをし、環境を把握します。入居前に関わったケアマネさんから話を聞いたり、サマリーをいただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテにその日の様子やレクでの様子、食事量、バイタル測定、排泄量等を入力し情報共有行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り、毎月のグループ会議で職員同士でモニタリングをし、ご本人様、ご家族様からも意見を聞き、介護計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(お食事・水分・排泄・バイタル等)をカルテに入力し、情報を共有している。また、気が付いた点があれば申し送り時に話題にあげ、申し送りノートにも記入し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、やご家族様の状況に応じて受診援助や買い物支援等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅前繁華街ではあるが、近所に大きな公園がある為散歩をしながら地域の方たちと話をしたり、季節を感じていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月に1度の往診の他に24時間電話対応して頂いている。かかりつけ医が内科医の為、認知症や精神疾患、皮膚科、整形外科、泌尿器科等専門医受診はご家族様のご協力をいただき、最適な医療が受けられる様支援させていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問し、バイタル測定を行い、介護職員の気付いた点を報告し、助言を頂いている。訪問看護師とかかりつけ医が24時間電話対応して下さっているので、いつでも適切な受診や看護を受けられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず職員が付き添い情報提供に努め、サマリーを病院に提出している。入院中も病院のソーシャルワーカーや病棟の担当看護師と連絡を取り情報交換に努めている。退院時も必ず付き添い退院時のサマリーや薬情等細やかな指示を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したご入居者様はご家族様の意向、ご本人様の意向を確認し、主治医の指示の下、看取り支援を行っています。入居の際、十分な説明を行い、契約書に同意、署名、捺印を頂き、主治医より、看取り期との診断があった時に再度看取り契約の確認を行っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故対応時は事故報告書をもとに、その都度カンファレンスを行っている。社内対応フローをもとに、的確な対応が出来る様、日々指導教育行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練にてご入居者様の避難方法等、職員の研修は出来ているが、コロナ禍で地域との協力体制は築けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様個人の性格を把握し、訴えや会話を否定せず、人格を尊重する言葉がけに気を付けています。生活全般に関する支援については極力プライバシーを損ねない言葉かけや対応が出来る様努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様とのコミュニケーションを通して表情やお言葉をしっかり感じ取り、出来るだけ自己決定していただく環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のコミュニケーションを大切にし、本人のペースや希望に基づいてケアを提供出来るように努めている。若年性の方が1名みえるので、就寝時間やテレビ番組等他のご入居者様とは好みが違うので出来るだけご希望に沿ってサービスを提供出来る様支援させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るお洋服はご本人様が選び、訪問美容にてカット、カラー、パーマ等オシャレを楽しんでみえる。レクリエーションの一環としてマニキュアや口紅楽しまれている。昔から愛用されていた化粧水等ご家族様にご協力いただき、提供させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの希望やアンケートを定期的に行い、お取り寄せランチ等食事が楽しみになるよう努めている。出来る方にはテーブル拭きや食器洗い等手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が行っており、食事摂取量、水分摂取量管理出来ている。毎月1回栄養士による栄養管理指導が行われ、ご入居者様1人1人の習慣に応じた支援が出来る様指示頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアが出来る方は自立にて行っていただき、介助の必要な方は職員が丁寧に口腔ケアを行っている。毎週1回訪問歯科往診があり、虫歯治療、義歯調整、磨き残し等の定期的なチェックをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを職員全員で共有し、声掛け、誘導にてトイレでの排泄が出来るよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクリエーションの中に軽運動が組み込まれており、自らウォーキングを実施される方も多くいらっしゃる。必要な方は医師に相談し、内服にて排便コントロール行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日を除いた午前中に行っており、週2回程度になっている。個々の希望日や時間に沿った支援は出来ていないが、少しでも楽しめる様入浴剤を用意し好きな入浴剤を選んで入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアへの案内は強制せず、自室で自由に過ごされる方もいらっしゃるが、殆どの方がフロアに出てテレビや談話、レクリエーションに参加されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、ご入居者様全員の服薬情報を理解するには至っていないが、個人ファイルに薬情がファイルされており、確認出来る状況となっている。通常の服薬手順に加え服薬支援システムが導入されており、誤薬等の事故を防ぐ事が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の好みや能力に合わせて職員とコミュニケーションを取りながら洗濯物干しや、衣類畳み等お手伝いをさせていただいている。役割を持つ事で生活に張り合いや喜びを持っていただける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えているが、天気の良い日は近所の公園まで散歩に出かけたり、2Fバルコニーに出て日光浴行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出の支援を控えている為、お金を預かり、職員が代行で買い物行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で以前よりも電話やビデオ通話、手紙のやり取りが頻繁になった。レターセットや塗り絵付き葉書等用意し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは、ご入居様がくつろいで生活出来る様テレビやソファ、季節の花等配置し居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様は各居室で一人になる場所があり、気の合う方とテーブルやソファで自由に過ごされる。ご入居様の意見で席順を変更することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から大切にしている物や、馴染みのある家具等持ってきていただき、以前との生活のギャップを感じない工夫をしています。居室の壁にレクレーションで作った作品を飾ったり、写真を飾ったり生活感を出しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、屈伸運動や廊下歩行を行い、運動不足にならないよう配慮しています。トイレや居室が分かりやすいよう大きな字で表示しています。		